

キュービッド便り

二〇一九年九月号

ご訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭
☎42-2941

故母日高スエ儀八月一日八十三歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家
ふなゆきの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町船行七八
長女 日高 小一 生
二女 宮田 祥子
二男 宮田 益徳
三女 岩川 三子
外親 川高 三子
外親 川高 三子
同族 川高 三子

故姉磯部ヒサエ儀八月二日九十歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場楽養生にて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦八二三番地一一
義弟 渡邊 京志
弟 渡邊 盛志
弟 渡邊 盛志
弟 渡邊 盛志
外親 田中 清盛
外親 田中 清盛
同族 田中 清盛

故夫三角治敏儀八月五日八十七歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町楠川七九番地
喪主 三角 満沙子
長男 三角 久志
長女 三角 喜佐子
外親 菊地 喜佐子
外親 菊地 喜佐子
同族 菊地 喜佐子

故母中島正江儀八月五日九十九歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦二三五一番地四八
二女 中島 喜美江
二女 上野 主行
三女 上野 信子
長男 中島 みどり
外親 中島 尊
外親 中島 尊
同族 中島 尊

故夫中島繁太郎儀八月五日七十六歳の生涯
を
とじました。
なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦二四五二番地七二
長女 中島 朋子
二女 中島 陽子
二女 中島 まどか
孫 中島 由萌
外親 中島 由萌
外親 中島 由萌
同族 中島 由萌

故母安藤智恵子儀八月七日八十歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家
こせだの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町小瀬田三九九番地一一一
義弟 岩川 隆一
弟 岩川 憲一
弟 岩川 真一
弟 岩川 真一
外親 上田 真一
外親 上田 真一
同族 上田 真一

故長男田代健儀八月八日五十歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦一一五
母 田代 義和
姉 田代 義和
義弟 田代 義和
義弟 田代 義和
外親 田代 義和
外親 田代 義和
同族 田代 義和

故夫岩川三郎儀八月九日七十四歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦二四七四番地六五
長男 岩川 利充
長女 岩川 志穂
孫 岩川 志穂
孫 岩川 志穂
外親 岩川 志穂
外親 岩川 志穂
同族 岩川 志穂

故母日高ナル儀八月九日九十二歳の生涯
を
とじました。
なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町楠川一四九二番地一一
長女 日高 章子
二女 日高 由紀
二女 日高 美紀
孫 日高 真輝
孫 日高 真輝
外親 日高 真輝
外親 日高 真輝
同族 日高 真輝

故夫下村實儀八月十日九十三歳の生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦二三七三番地四
長男 下村 昌和
二男 下村 昌和
三男 下村 昌和
外親 下村 昌和
外親 下村 昌和
同族 下村 昌和

故母寺田ツキミ儀八月十七日九十二歳の
生涯を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて
執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町宮之浦二四五〇番地六
長男 寺田 親利
長男 寺田 親利
長女 寺田 親利
長女 寺田 親利
外親 寺田 親利
外親 寺田 親利
同族 寺田 親利

故夫渡邊繁男儀八月十七日六十七歳の生涯
を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家
ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町水田二五四六一一
長男 渡邊 成剛
長女 渡邊 美美
長女 渡邊 美美
孫 渡邊 美美
外親 渡邊 美美
外親 渡邊 美美
同族 渡邊 美美

故夫岩川信隆儀八月十七日五十九歳の生涯
を
とじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家
なかまの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせ
いたします。

喪主 鹿兒島県熊毛郡屋久島町中間六番地
長男 岩川 美恵
長男 岩川 美恵
長女 岩川 美恵
孫 岩川 美恵
外親 岩川 美恵
外親 岩川 美恵
同族 岩川 美恵

八月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。
誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。

屋久島葬祭

社員	【仕事内容】	葬祭アシスタント・生花販売 (要普通免許・AT可)
	【時間】	午前8時30分～午後6時 (残業有り)
	【月給】	165,000円～(通勤・家族・残業・職務・技術などの手当有り)
パート	【仕事内容】	清掃・配達・接客など (要普通免許・AT可)
	【時間】	一日パート 午前8時30分～午後6時
	【月給】	850円～
アルバイト	【仕事内容】	前日に電話確認します。 あなたの都合のいい日に働けます。
	【月給】	850円～


さあオズに急げー

ギフトショップ **オズ**

増税前の

大売り出し!!

28日(土) 29日(日) 2日限り

半額 (イフ会員)  **3割引** (会員以外)

○必ず会員証の提示をお願いいたします

○贈答用商品は割引になりません

イフ会員募集!! 2日間に限り5,000円にて入会できます

ひやひや

最近、皆が感じるように、亡くなる人が多かった。歳に関係なく、訪れる死、突然の別れ。そのたびに、考えさせられることばかりだった。24時間、時間関係なく、搬送、打ち合わせ。自分自身は仕事だけど、目の前にいらっしゃる人達は大切な人を亡くし、悲しみと不安な顔立ち。

時間をあけてあげたいけど、実際、打ち合わせをしないといけない。言葉に気を使い、間をあげながらも、少しずつ話を進める。そんな中に、今でも耳にする言葉。棺は燃やすから一番やすんどよか、良い棺に入れる意味わからんとか、亡くなった人に聴かせたい会話。

ほんと、そのたびに、別に良い棺にしなさいと言わなければならない、その言葉を言わず決めれば良いのにと、残念な気持ちになる。そうそう、お父さん方が亡くなった時によく聞く言葉、男親つて、亡くなった時も、母親にはかなわない。

今回、ほんと、身近な人々が突然別れを告げた。つい数日前に会った人が、今はいない。えっどうして、なぜの言葉の後は、生前のいつもの姿、いつもの笑顔、いつもの笑い声が溢れてくる。

いつかは別れが来ることは、わかっているけど、なぜ今、なぜあなたなの。生と死、紙一重、なんだろう、命つて。そんな気持ちは、一本の電話から始まる。今回、俺自身にも訪れた。〇〇が亡くなったよ、同級生の〇〇が事故で亡くなった。えっなんで、嘘だろ。

気持ちの整理がつかないまま、少しの望みを胸に事故現場に向かう。陽が沈み、夜の暗闇の中に、消防、警察、仕事の関係者など集まり、対応にあたっていた。到着後、無線連絡で心肺停止、硬直あり死亡確認。数時間後、皆の力で降ろさせた遺体袋。その状況を見て、現実を実感し、悲しみがあふれた。

病院に運ばれ、死因確認。ロビーで待つこ両親、兄弟そして、同級生。そんな家族にかけられる言葉は、簡単には見当たらなかった。

数時間後、俺は同級生の立場から、葬儀社という立場に気持ちを切り替えるしかなかった。

あらためて、服を着替え、病院に迎えに行き、自宅まで送った。布団に眠る同級生、普通に寝てるようにしか見えない。そのそばに寄り添うこ両親の姿。自分の親の姿がかぶり、悲しみを増幅させた。亡くなった同級生とは、一番家が近く、幼馴染みであり、小さい頃は、自宅に遊びに行ったこともあり、あまりにも身近な存在だった。

悲しみの中にも、時間だけは刻々と過ぎていき、葬儀の日を迎えた。たくさんの同級生が島外からも来てくれた。同級生代表挨拶に遺族の挨拶、そしてお花を入れて最後の別れ。棺の中で、たくさんの花に囲まれた同級生の姿を見たら、今まで我慢していた気持ちが、涙と一緒にあふれ出した。

〇〇は、ほんと良いやつでした。自分のことよりも、いつもまわりのみんなを気遣う心の優しい〇〇だった。これからも、同じように歳をとり、同じように還暦を迎え、人生を終えると思っていた。

〇〇、お前との別れはつらく信じられないけれど、さよならは言わないからな。〇〇、ほんと、今までありがとう。と、伝えた。

最後に、ふたを閉めるときに、お父さんが言われた一言「くやしかね」。ほんと、この言葉しかない、親心。そして、同級生は旅立った。

これから、何度この気持ちを味わわなければいけないのだろうか。親、同級生との別れ、次は自分が旅立つかもしれない。ただ、はつきり言えることは、別れはつらく苦しいけれど、親より先に旅立つてはいけない、頂いた命だからこそ、親を悲しませてはいけない。

それが一番の親孝行だと思っ。こんな気持ちを、同級生の死で感じるとは。悲しいことだった。